

2008年度第3四半期決算説明会 主なQ&A

Q1: ガス販売量の動向について教えて欲しい。

A1: ガス販売量については対前年同期1億32百万m<sup>3</sup>・1.3%増の100億55百万m<sup>3</sup>となりました。

分野別では家庭用が、対前年同期▲8百万m<sup>3</sup>・▲0.4%減の21億16百万m<sup>3</sup>となりました。検針日数が対前年で使用日数が前年より1.6日少なかった影響に加え、世帯人員の減少、建物の鉄筋化、省エネ機器の普及等構造的な要因と、定量化はできませんがお客様の節約行動により減少したものと思われま

す。業務用では、対前年同期▲80百万m<sup>3</sup>・▲3.5%減の21億71百万m<sup>3</sup>となりましたが夏場の低気温による空調需要の減が大きかったのに加え、対電力で民生用コジェネの稼動が下がったことが主な要因です。

工業用では、第3四半期からの急激な景気悪化に伴い、対前年同期1億53百万m<sup>3</sup>・3.6%増の44億13百万m<sup>3</sup>にとどまりました。

卸供給向けは、対前年同期67百万m<sup>3</sup>・5.2%増の13億54百万m<sup>3</sup>となりましたが、新規供給開始事業者はなく、既存のお客様の引き取り増が要因です。

尚第4四半期の景気後退は第3四半期よりも大きいと考え、前回見通しよりさらに下方修正しました。この結果、通期では▲1億26百万m<sup>3</sup>・▲0.9%の減の140億89百万m<sup>3</sup>と、対前年マイナスを見込みました。

Q2: 景気減速傾向により、既存の工業用需要は減少しているが、新規開拓の状況はどうか。

A2: 同日に発表させていただいた中期経営計画 2009年度～2013年度の期間中に顕在化してくる需要を現在営業開拓しておりますが、現時点の感触では開発量が以前に比べ急激に落ちているということはありません。

ただ、新規に開拓した需要家が実際にお使いになる時に営業時に予定していた通りの量の都市ガスをご使用くださるかどうかは実際に稼動しないと分かりません。

Q3: 原油価格や為替動向が、収支に及ぼす影響は？

A3: 08年度の通期見通しに対して今回見通しの経済フレームの前提は原油価格を1～3月の日本入着価格原油(JCC)50\$/bbl、為替レートは1～3月を95円/\$といたしました。1～3月を通じて1ドル/bbl原油安となった場合には08年度見通しでは2億円、為替1円/\$円高となった場合に9億円の増益効果を見込んでいます。

Q4: 第2四半期時の見通しに比べて今回の通期見通しでは諸経費が増えているよう

だが、なぜか？

A4: 通常から実施している劣化したガス管の取り換えを加速させるためです。老朽管の加速取替えは政策として今後も優先して取り組んでいきます。

以上